

三好ヶ丘ニュータウン

■ は神社

★ はアート作品



↑ 「Horse - 戯 -」
銅谷 祐子・作



↑ 「光の塔」
近藤 均・作



「流水 Running Water」→
鹿田 淳史・作

アートのまち

三好ヶ丘ニュータウンを特徴づけているのは、数々のパブリックアートの存在。これらは、街びらきの頃「アートのある暮らし」をコンセプトに行われた、「アートヒル三好ヶ丘彫刻フェスタ」での全国の彫刻家による優秀作品である。現在では、三好丘を中心に市内各地に設置されている。

①三好ヶ丘駅

昭和54年（1979）開業。開業時は福谷行政区であり（P51 地図）、未開発の場所であった。名鉄豊田線の建設計画をきっかけにニュータウンの開発計画が進むことになった。「福谷」を「うきがい」と読むことは難しく、当時の三好町北部丘陵地に位置

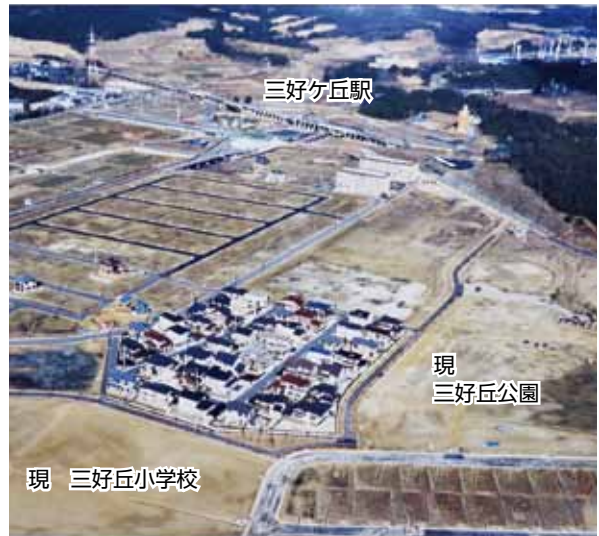


名鉄豊田線三好ヶ丘駅

していることから「三好ヶ丘」とされた。開発計画では「三好ヶ丘」であったが、平成3年（1991）年の行政区設置の際、行政区の名称は「三好丘」となり、住所表記も「三好丘」となった。

②宅地造成のようす

乱開発を防止するため、三好町と北部行政区が検討し、住宅・都市整備公団による公的開発が進められることになった。三好ヶ丘ニュータウン開発計画に沿って昭和56年（1981）着工した。昭和63年（1988）「アートヒル三好ヶ丘」として街びらきが行われた。



昭和63年（1988）の三好丘



昭和52年(1977)



平成19年(2007)

（左右とも「国土地理院国土画像情報」）

赤い線は現在の行政区界を示す。昭和52年（1977）を見ると、現在の三好丘行政区の範囲がほぼ山林か田や畑であったことがわかる。

③街づくりの工夫



アートの小径とフィットネス用具

また、幹線道路は地域の周囲を囲むように走っている。住宅地へ入る道の場所は限られ、通り抜けの車が住宅地に入らないように工夫されている。



④開発と摩伽神さんの移動

現在の三好ヶ丘駅南西200m辺りに、「摩伽神」と書かれた石があった。水の神様であり、粗末にすると祟りがあったと伝えられている。「摩伽神」の石は、三好ヶ丘が開発される時、福谷八柱社（P42）に移された。

新しい街の公園には、子どもたちに親しんでもらえるように、みよしに古くから伝わる昔話の名板が立っている。

←昔ばなし摩伽神さんをモチーフにした
北井山公園の名板

⑤名古屋刑務所



名古屋刑務所は昭和40年（1965）に、名古屋市千種区から三好農場跡に移転された。三好農場は、昭和16年（1941）春、食糧増産と収容者の心身鍛錬、農業技術の修得とを目的に開墾された。その面積は43ha。



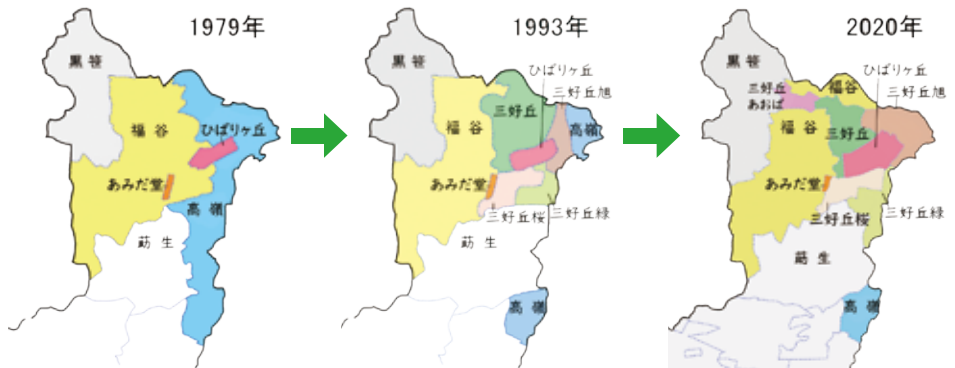
水田の跡



農場開墾風景

（左右とも名古屋刑務所資料）

⑥行政区の変遷





東部開拓地

東山区高嶺区は昭和時代前半に開拓された所である。昭和時代の国策—食糧増産—に則り未開の山林原野の開墾入植が続けられた。東山区の弥栄地区は昭和9年（1934）から愛知県不良土開発指導試験地として、東明地区は昭和17年（1942）農林省開発営団開発地として、宝栄地区は陸軍農耕隊の開墾地が戦後民間に払い下げられた。戦後愛知用水の導入により高嶺区の開墾入植が行われた。現在、東山区は住民も増加している。



■は寺社

東山行政区

①弥栄地区

昭和6年（1931）頃数回にわたる耕地整理により開発が始まり、愛知県不良土開発指導試験地として柴田修一氏を指導者として10人の青年が入植し開墾が始まった。

傾斜地で荒地、平地が少ない土地の入植者は、公会堂と称した共同施設で集団生活をして開墾作業に従事した。東山区制施行五十周年記念「東山のあゆみ」には次のような貴重な写真が掲載されている。



① 弥栄神社



最初の入植者と当時の村長



最初の開拓者の住居

②東明地区



東明神社



東明開拓記念碑

この地区は主として旧新屋の溜池曲り池の上流地帯であり、3mほどの低木が生える荒れ山であった。戦時中の昭和17年（1942）農林省開発営団開発地として13人の入植者により開墾が始まり、さらに戦後昭和21年（1946）東山開発の入植者が6人増えた。

③宝栄地区

宝栄地区は、第二次世界大戦末期の食糧増産のため陸軍農耕隊により開拓が進められたが、戦後の食糧不足と失業対策のため、昭和21年（1946）開墾地として払い下げられ本格的な開墾が始まった。



宝栄神社

東山行政区の成立

三つの開拓地は、弥栄を一番先輩として後から開拓された東明や宝栄は弥栄の助けと指導を得て助け合って開拓事業を進めることができた。昭和23年（1948）三好村第11番目の行政区として独立した。

高嶺区(当初は広がった三好町東部豊田市との境に連なる高嶺区)

狭くなった高嶺区

三好丘緑公民館前に建つ「三好開拓農業協同組合高嶺開拓碑」の裏面には「第二次世界大戦後国策により食糧増産と失業対策並びに農家二三男対策の一環として、鋤鎌のみの開拓は筆舌に尽くし得ぬ歳月と伊勢湾台風等度重なる災害を乗越えて、昭和36年（1961）の愛知用水開通による光明を見出し、あたかも時を同じくして四地区が新行政区高嶺区として昭和37年（1962）に誕生し、開拓の原動力として働いた三好開拓農業協同組合を解散するに至った。」経緯が記述されている。この碑文を読むと高嶺区は三好村東部で豊田市との境に連なる広い地区であったことが分かる。



開拓農業協同組合の構成（四地区）

舟ヶ峪地区（10人）昭和26年鋤入22町9反
緑ヶ丘地区（13人）昭和27年鋤入57町9反
大鹿山地区（19人）昭和28年鋤入53町7反
愛知用水建設関連移住開拓地旭ヶ丘地区（13人）
昭和33年鋤入 56町5反

この開拓碑に記述されているように高嶺区は、当初四地区から成り立っていたが、3地区はその後三好丘に編入され、現在は大鹿山地区のみが高嶺区になっている。

④三好開拓農業協同組合 高嶺開拓碑

(題字：桑原幹根愛知県知事書)

⑤大鹿山に建つ開拓記念碑

(題字：三好町長久野知英書)



開拓入植当時の苦勞

(「令和4年〈2022〉5月古老座談会の記録」より)



座談会のようす

東部開拓地共通のことから

- 食糧増産という当時の国策により開拓された。
- 丘陵地で水田には不向きで畑作しかできなかった。
- 土地がやせていて小石が多く備中や唐鍬で開墾した。
- * 稲作ができないので米は配給に頼った。

それぞれの地区で苦勞したこと

- 弥栄 戦争で召集され戦死者が多く出た。
入植者10人のうち8人が出征し4人戦死した。
- 東明 戦時中のため米の配給が少なくつらかった。
昼食の弁当箱をあけるときがみじめだった。
- 宝栄 村（町）の支援がなく離農する家が多くなった。
現在は居住者が代わっている。
- 高嶺 地区の神社のある場所が三好丘陵区になってしまった。
高嶺神社に自由にお参りができなくて残念だ。
(P51の⑥行政区の変遷図参照)